

スローライフとグリーンツーリズム

(財)えひめ地域政策研究センター

研究員 橋 岡 勝 一

1. 新しい暮らしの概念 スローライフ

今の暮らしは、いつも時間に追われているように感じられる。みんなその流れに遅れないように一生懸命になり、自分の暮らしを考える心の余裕がなくなっているのではないだろうか。効率性・利便性を優先して追求し続けてきた結果、自然環境やエネルギー、食料、教育などに多くの問題が生じてきた。

最近注目を集めている「スローライフ」は、そうしたたくさんの問題に直面している現在の自分たちや将来の世代の暮らしを見直そうとする、新しい概念のひとつである。自然な時の流れや人間の心を意識した暮らしをはじめ、これまでの暮らしの中で見落としてきたものを見つめ直し、「ゆっくり」、「じっくり」、「手間暇かけて」の良いところを再評価することが「スローライフ」の考え方ではないかと思う。

そうした「スローライフ」の実践は、農山漁村に残る昔ながらの暮らしの中に見ることができる。

ここ数年、農山漁村地域の自然や暮らし、文化に心のやすらぎを求め、農作業を体験したり、その土地ならではの食を味わいに訪れる都市の人たちが増えている。グリーンツーリズムはそのような「緑豊かな農山漁村地域において、その自然、文化、人々との交流を楽しむ余暇活動」であり、「スローライフ」を体験できる絶好のツールとなっている。

グリーンツーリズムには、その滞在時間や地域の事情によって、いろいろなプログラムがある(表1)。その中でも、グリーンツーリズムの特徴的なプログラムが「農家民泊」・「農家レストラン」である。このプロ

グラムでグリーンツーリズムを行っている2つの事例について紹介する。

表1 グリーンツーリズムのいろいろなプログラム

プログラム	内 容
農業公園・観光農園・森林公園・自然公園・市民農園	日帰りを基本に気軽に農林漁業・農山漁村資源を体験できる。
クラインガルデン	簡易宿泊施設付き市民農園。
農産加工体験・農村工芸体験	日帰りを基本に気軽に農林漁業・農山漁村資源を体験できる。
オーナー制度	遊休農地や果樹等にオーナーを募り、作業体験や収穫した農作物を送付。
農産物加工	お母さん、おばあさんの手作りの味をみんなに分ける。
直売所	その日の朝に採れた新鮮野菜が並ぶ。
農家レストラン	自分の家で採れた旬の素材を料理する。
農家民泊	農村の豊かな暮らしを都会の人と分かち合う。
自然学校	豊かな自然や動物たちとのふれあいを通した環境学習。
ワーキングホリデー	農家等に労力を提供しながら、休暇を地域で過ごす制度。
地域づくりインターンシップ	学生等が一定期間農山漁村に滞在し、地域と交流する制度。
山村留学	都市の小学生が一定期間農山漁村の学校に通い、地域で過ごす制度。

2. グリーンツーリズムの事例

(1) 農家民泊

安心院町グリーンツーリズム研究会(大分県安心院町)

安心院町は、大分県の北部に位置する、人口約8,600人の町である。

安心院町には、大型観光施設「アフリカンサファリ」があり、年間約120万人が訪れる。その一方で、かつてこの地を訪れた司馬遼太郎が「日本の美しい景色を

保存している点で誇るべき土地だ」と賞賛した自然を活かし、農業を軸にした新しいライフスタイルの提案として、グリーンツーリズムを地域ぐるみで推進している。

この事業の実施主体である安心院町グリーンツーリズム研究会は平成8年に発足した。会員は、農家はもちろん学者や行政職員、マスコミなど、350人を超えていて、そのうち半数近くが町外の応援団となっている。事務局のほか企画開発部、環境美化部、アグリ部、農泊部などの専門部会があり、それぞれグリーンツーリズムのプログラムの充実に向けた活動を行っている。

この研究会の事業の特徴は、「安心院方式」と呼ばれる会員制の農村民泊（農泊）である。農家民泊ではなく農村民泊もしくは農泊と呼んでいるのは、農家でなくても実践できるということを含意しており、空いている部屋や家の離れ、倉庫を利用し、洗面所や水洗トイレの改修を行う程度で、多額の改修費用を必要とせず事業の開始ができるようになっている。現在通年受け入れができる場所は15軒で、五右衛門風呂・囲炉裏のある土壁の家やパンを作っている築100年の農家、周辺に史跡が残る元中学校長の家など、それぞれ違う個性がある（表2）。

1日1組のみの予約制で、1泊朝食付きで大人1人4,000円。基本的に夕食は出さない。農作業等の体験にかかる料金は別途そのプログラムに応じて決められている。1度泊まったら「遠い親戚」となりメンバーズカードが渡され、農泊会員になる。カードの裏に宿泊するたびにスタンプが押されるシステムになっていて、10回泊まれば「親戚」ということで賞状・記念品を出している。現在農泊会員は約2,000人いるが、農泊先での家族との会話はまさに親戚の家に来ている感覚になっている。

安心院町のグリーンツーリズムが成功している要因のひとつには、地元自治体の強いバックアップがある。平成8年度に町がグリーンツーリズム推進構想を策定し、議会もグリーンツーリズム特別委員会を設置して、グリーンツーリズムを理解し、町のま

表2 安心院町の農村民泊

屋 号	体 験 内 容
龍泉亭	純和風、築70年の2階建て家屋に暮らす夫婦2人でお出迎え。豆腐・こんにゃく作り体験、近くで溪流釣りもできる。
舟板 昔ばなしの家	炭焼きや牛飼いや、多彩な体験が年中できる。客室はあら壁の2階建て。薪で五右衛門風呂を沸かす。夜は囲炉裏で昔話を楽しむ。
キッチンガーデン サトウ	英国の家庭菓子を一緒に焼いて、ティータイムを楽しむ。家のそばに川が流れ、絶好のバードウォッチングスポット。
やわらか まんじゅう	石垣餅・やわらか饅頭作りなどの体験ができる。近くに400万年前の化石発掘現場がある。一面に広がる田園風景。
百年乃家 ときえだ	築100年の農家。シルバー夫婦は野菜作りの名人、若嫁さんはパン工房を主宰。家族・仲間で農業体験・パン作り体験。
そごりの舎	家庭菜園で野菜の収穫や会話を楽しむ。近くの史跡や磨崖仏等の散策や川遊びなど、ゆったりとした時間を体験できる。
洋子のぶどう畑	春は山菜、夏はぶどう、秋は米とたくさんのお果物、冬はぶどうの手入れ。自給自足の生活をしている。ぶどう狩りができる。
しいたけ村	年中竹とんぼや水でつぼうなど竹を使った工作が楽しめる。夏は魚とり、昆虫採集。秋から春はしいたけ採りもできる。
王様の小屋 King's Cabin	年間を通してぶどう関連の農作業が体験できる。自宅前の直売所では巨峰ジュースやジャムなどの加工品や手作りパンを販売。
Matsuki Farm ドン・百姓亭	家庭菜園で無農薬野菜に挑戦。自家製のそば、こんにゃく、みそと旬の野菜を使った家庭料理が味わえる。家の周囲には棚田が。
むろや muroya	由布岳・鶴見岳を一望できる抜群のロケーション。近くには温泉や名勝旧跡も。魚釣りや野菜収穫が楽しめ、川魚料理もできる。
星降る 高台の家	年中野菜作り、ガーデニングができる。高台から見下ろす田園風景はすべてを忘れさせてくれ、夜の星空は宝石の煌き。
いちごや	イチゴのベンチ栽培で立ったまま摘み取れる。12月から5月にかけてイチゴが熟れる。近くに饅頭通りがあり、静かな佇まい。
もっちゃんち	虫の鳴き声が奏でる音楽、星空の静けさで「心のせんだく」ができる。韓国語を勉強中で、韓国の方や留学生も大歓迎。
カッパの寺子屋	明治期の私塾を修復。「便利はうれしい、不便は楽しい」がモットー。囲炉裏やかまど等、昔の不便さが楽しさを学ばしてくれる。

ちづくりとして推進していった。翌年には全国に先駆け「グリーンツーリズム取り組み宣言」を議決し、町の重要な施策として、推進協議会の事務局を町に設立。平成13年に全国初のグリーンツーリズム推進係を設置するなど、官民協働の推進体制が確立されている。そして、農村民泊を行う場合は通常宿泊施設に保健所などからの規制がかかるが、こうした住民主体の安心院町グリーンツーリズム研究会の実行力と町・議会のバックアップという官民一体となった取り組みと実績が認められて、平成14年に、大分県での農村民泊の規制緩和が行われた。

(2) 農家レストラン 「たてのいえ」(宮城県名取市)

宮城県名取市は仙台市の南東に位置し、肥沃な土地、

気候、風土に恵まれ、居住環境に適した、自然と共有できるまちである。広域仙台都市圏の副拠点都市として、人口集積、企業立地も進み、仙台空港もある。

洞口とも子さんが経営する農家レストラン「たてのいえ」は、仙台空港から車で5分の、静かな田園地帯にある。農業をしながら、国の重要文化財である生家の屋敷「洞口家住宅」を活用した農家レストランである。

祖先が残してくれた文化財を何とか地域のために活用したいと、まず洞口さんが代表をしている農産加工グループ「やかた」(メンバー4人)の作品発表の場として、平成9年に「やかた祭り」を行った。50人もの地域の人たちの支援により、300人の来場者があり、地域と都会との交流の輪が広がった。現在は、「やかた祭り」のほか、地域の文化を紹介するお祭り、お月見会でのコンサートと、年3回のイベントを組んでいる。

そうした文化財を活用したイベントに取り組んでいく中で、農村女性の自立、地域貢献、食を通しての消費者との交流をしようという考えが生まれ、平成11年に農家レストラン「たてのいえ」をオープンした。

来訪者にゆっくりと過ごし、心身ともにリフレッシュしてもらうということを目指し、昼食のみで1日1グループの完全予約制を採っている。2,500円のコース料理で、名取でとれた旬の食材をメインに伝承料理や現代風にアレンジした料理を提供し、日本建築の文化、建物の空間、食器類も料理のひとつと考えられている。また、食事の後には洞口さんからの建物や地域の歴史・文化の説明もある。受け入れる人数は通常20名程度で、土曜日の昼間のみの営業ではあるが、評判が口コミで広がり、またマスコミの紹介もあって、ほとんど毎週予約が入っている状況にある。

別棟にある直売所「旬の情報館」では、やかたグループに5人加わって9人で、消費者と生産者の交流を通し、互いに農業に対する理解を深めることを目的に、名取の旬の野菜を販売しPRしている。囲炉裏を囲んでの地域の憩いの場、都会の人たちとのふれあいの場となっている。



農家レストラン「たてのいえ」

このように、農家レストラン「たてのいえ」は文化財の建物としてだけでなく、その背景にある地域の歴史・文化も活かし、都会の人に対し、地域の食・農業・農村をアピールする場となっている。

その結果、市内にある大手スーパーのジャスコから「旬の情報館」の出店依頼があり、名取市内の2つの農家女性グループと「サンサンメイト」という16名のグループを立ち上げ、平成13年から毎日野菜を供給している。自分たちが責任を持ち、生産者の名前、顔写真、電話番号、日付を入れ、値段も決めていて、低農薬野菜として好評を得ている。

また、農家レストラン「たてのいえ」では、地元の大学の協力を得て小学生を対象にした農村の循環型生活の勉強会も行なうなど、生涯学習の場にも活用しようと取り組んでいる。

以上、安心院町グリーンツーリズム研究会と農家レストラン「たてのいえ」の事例について紹介したが、共通して言えることは、活動が「農家民泊」・「農家レストラン」だけに留まるものではなく、都市・農村交流のツールとして考えられており、交流人口の増加を通じて、地域づくり、地域活性化の動きにつながっているということである。都市の人たちが地域にあるありのままの自然・文化・生活などを体験し、のんびりとした時間を過ごすという仕組みを、地域の人たちと行政や企業、学校が協働しながら、地域全体で作り上げてきている。

3. グリーンツーリズムによる地域の活性化

(1) グリーンツーリズムの農山漁村への効果

2つの事例から、グリーンツーリズムには単に特定の農林漁家の副業としての意味だけではなく、農山漁村地域の総合的な活性化への手法としての可能性がある。

その効果としては、①地域の自然・歴史・文化・生活等の再評価とそれを活用した事業化、②交流人口の増加による地域の応援団の形成、③農林漁業体験や農家レストラン等による地域の農林水産業への新たな付加価値の創出、④農家民泊や直売所での販売による所得の向上、⑤地元の行政・企業・学校等との協働、⑥地域の空き家等の有効活用が挙げられる。

また、最近「グリーンヘリテージ」という言葉がよく聞かれる。「グリーンヘリテージ」とは農山漁村地域の産業遺産で、①サイロや水車小屋、農作業場等の産業施設、②道路や水路、河川、運河、鉄道等の産業インフラ、③学校や病院、芝居小屋、湯治場、映画館等の生活インフラ、④農業技術や農村芸能等のソフトインフラを指す。

「グリーンヘリテージ」は地域の産業や生活を説明できるものであり、その価値を次世代に遺したいもの、伝えたいものである。地域にある「グリーンヘリテージ」を再評価し、ネットワークすることで、グリーンツーリズムのメニューを豊富にすることが可能になり、併せてこれらの資源の保存活用にも資するものと考えている。安心院の農村民泊や農家レストラン「たてのいえ」も、「グリーンヘリテージ」を有効活用した事例であると言える。

グリーンツーリズムが地域に与える効果には、経済的な側面だけでなく、「地域の人たちの心の活性化」という精神的な側面もある。都市の人たちとの交流で、地域の人たちの関心が外に広がり、開かれた地域になる。これによって、地域の若者も元気になり、人づくりにもつながってくる。また、お年寄りが持つ技を地域における体験指導に活用することは、地域のお年寄りの生きがいにもなると考えられる。

(2) グリーンツーリズムの実践

グリーンツーリズムは、いろいろな地域資源を、地

域の人たちの生活の中で、地域の人たちの知恵で有効に活用することが基本にあり、地域全体で取り組む必要がある。

まずは、地域の人たちとの話し合いで仲間を増やし、勉強会やテストイベントを開くといった助走期間が必要である。組織づくりとしては、①個人、②農家レストラン「たてのいえ」のような小グループ、③小集落、④地区事業、⑤安心院町グリーンツーリズム研究会のような市町村単位の事業、⑥公社・JR・JA等との連携などがある。

しかし、都市の人を受け入れるということで、そのことに重点を置き過ぎ、気がつく地域における相互の連携が希薄になり、いつの間にかバラバラになるという状況も見られる。事業の継続的な実施、まちづくりの展開を考えると望ましい方向とは言えない。グリーンツーリズムの実践には、まず地域の人たちとのコミュニティ形成が必要である。

受け入れについても、ツーリズムを観光的に考えることにより、本業が邪魔をされるとか、勝手な都市の人たちの行動パターンに振り回されるといった問題がある。本業や地域のコミュニティ等、実際の生活を考えて、適正容量を守ることが重要である。ここに観光事業とは異なり、現実の生活の中に来訪者を組み入れるというグリーンツーリズムの特徴がある。無理をしないで身の丈に合った受け入れ体制をとることで、都市の人たちにきちんとした対応ができて、リピーターの獲得にもつながり、事業の長期的な継続が可能になるものと考えられる。

また、地域の活性化の側面から、グリーンツーリズムを持続できるものにするためには、ある程度の経済効果がなければならない。グリーンツーリズム自体は大きな産業にはなりにくい。グリーンツーリズムそのものの経済効果を期待し過ぎると、本来の特徴を失い、受け入れ側も都市の人にも目的を達成できなくなる。グリーンツーリズムの実践が、結果として、地域の異業種の人たち・団体とのネットワークにより地域産業のマーケティングの見直し、地域流通システムの改善等が期待でき、地産地消や将来

的には地域産品のブランド化といった地域の産業振興にもつながっていくのではないかと考えられる。また宿泊業やトレッキング用品店などの関連業の振興もあり得る。

さらに、グリーンツーリズムを魅力あるものにするためには、体験プログラムや情報発信等の工夫も必要で、アイデア作りには実際の参加者の意見を聞くことも大切であり、プログラムの改善作業も怠ってはならない。宿泊費や体験料など金銭的な利益は少ないが、グリーンツーリズムは観光ではなく、都市の人がありのままの農山漁村資源とふれあいに行くというものだということを忘れてはならない。

4. スローライフの流れの中でのグリーンツーリズム

日本のグリーンツーリズムの原点は、お盆と年末年始に帰っていた「いなか」にある。「いなか」のおじいちゃん、おばあちゃんたちは都会の孫にとって遊びの先生であり、「いなか」の体験をさせていた。「いなか」の山や川、海で遊んだ思い出は、その人の心の宝物になっている。しかし、都市への人口集中が進む中で「いなか」がなくなった都市の人が増えてきたため、いまや気に入った「いなか」をそれぞれが自分で見つける時代になっている。安心院の例でも、農村民泊の受け入れ側であるおじちゃん、おばちゃんがその役割を果たしている。

また、教育の現場では、近年、心の教育が重要視されてきている。文部科学省ではそのひとつとして、学童に農林漁業や農山漁村生活を体験させることを考え、「子ども長期自然体験村」などの事業を始めている。最近では農山漁村生活や農林漁業を体験する修学旅行や校外活動が増えている。安心院で受け入れた高校生の中には、農村体験・農泊体験を終えた後、感動のあまり涙を流す生徒もいたそうである。

都市に住むお年寄りの生きがいづくりにも効果がある。いろいろな農産加工や農村工芸、自然体験などを週替わりで行う高齢者対象のグリーンツーリズムを行うペンションもある。時間と経済的に余裕がある元気なお年寄りにとって、グリーンツーリズムは新たな感

動や生きがいの発見の場になっている。

このように都市の人たちは、グリーンツーリズムにより、都市の生活で失ってきた自然な時の流れや人間の心を意識した生活を体験している。また、昔ながらの生活・文化が残る農山漁村の暮らしの中で「スローライフ」を体験し、「心の豊かさ」を味わっているのである。

「スローライフ」が脚光を浴びている要因に、現在の都市生活が抱える環境や食、教育などの問題がある。「スローライフ」に憧れを感じながらも都市生活の中ですぐには実践できない都市の人たちにとって、グリーンツーリズムは魅力あるものであり、プログラムの充実や受け入れ体制の整備によってはまだまだ発展するものと考えられる。また、グリーンツーリズムによって、都市の人たちが農山漁村地域の自然環境の保全や農林水産業を理解することが、豊かな国土の形成に向け、重要な意味を持つと考えられる。さらにグリーンツーリズムは、高齢化・過疎化が進む農山漁村地域の維持、都市と農村の共生につながる可能性を持っている。

グリーンツーリズムは、「スローライフ」という新しい暮らしの概念が出てきている中で、農山漁村の地域づくりにとっての有効な手段になり得るのではないだろうか。

参考文献

『地域ぐるみグリーン・ツーリズム運営のてびき』

(財)都市農山漁村交流活性化機構 編

古賀 学「新しいツーリズムの台頭と今後の可能性」

『地域開発』vol.458 (財)日本地域開発センター